

読	み	切	り	ギ	ア	教	室												
文	学	部	2	年		伊	藤	智	哉										
選	ん	だ	本	の	タ	イ	ト	ル	:										
『	大	人	の	た	め	の	社	会	科	:	未	来	を	語	る	た	め	に	』
著	者	:	井	出	英	策	,	宇	野	重	規	,	坂	井	豊	貴	,	松	沢
裕	作																		
出	版	社	:	有	斐	閣													
出	版	年	:	2017															

せんせい、「社会」ってなあに？

「社会科は何のために勉強するの？」

塾でアルバイトをしている私は、生徒から  
このような質問を投げ掛けられることが多々  
ある。私はこの質問に今まで上手く答えるこ  
とができなかった。勉強嫌いな子どもにどの  
ように答えれば、「社会科」に興味を持って  
もらえるだろうか？そんな悩みを抱えている  
ときにこの本と出会った。

そもそも「社会」とは何なのか？我々は  
「社会」の中で生活をしている。「社会」に  
ついて学ぶということとは、今生きている世界  
について知ることである。故に、「社会科」  
を勉強しなくてはならないのだ、と生徒に説  
明したとしよう。おそらく生徒は私の説明に  
納得しないであろう。何故なら生徒が日常、  
生活している「社会」はあまりにも狭いから  
だ。生徒が生活する日常を「社会」として捉

えられなければ、「社会科」を学ぶ意義は理解できまい。

「社会」について考えるとき、生徒にとって、一番想像しやすいのは「勤労」だろう。

私たちは労働をすることで「社会」に貢献している。「勤労は美德」という価値観は日本人特有のものである。過労死などが問題となり、以前よりも「勤労」への意識は変化したように見える。では、「勤労は美德」という価値観は時代遅れになったのだろうか？否、「勤労」を美德とする価値観は未だに根強く残っている。「働かざる者、食うべからず」ということわざは誰もが一度は聞いたことがあるだろう。さて、このことわざを聞いたとき、生徒は「働かざる者」として、どのような人を思い浮かべるだろう？おそらく多くは定職に就かない、或いは働きたくても働けない人を想像するのではないだろうか？しかし、

このことわざにおける「働かざる者」は貴族

など身分の高い者を指している。日本人は知らず知らずのうちに「勤労は美德」という価値観が植え付けられ、「働かざる者」を嫌い、

「働かざる者」への社会的援助に抵抗を覚えているのだ。実際のところ、我々は「働かざる者」にこそ、いっぱい食べさせなければならぬのだ。

「勤労」以外にも「社会」を身近に感じられる例はこの本に多く出てくる。「社会」を身近に感じることで良い「社会」にするためにはどうすればよいか、という次のステップへ進むことができる。「社会科は何のために勉強するの？」この本を読めばこの問いに上手く答えることができる…かもしれない。